

[展示室便り⑦]

センター刊行物

今回は、大型計算機センター発足直前から現在までの当センターによる刊行物です。展示品1は、準備速報、広報誌 SENAC、大型計算機センター便りです。



展示品 1

大型計算機センターの発足は1969年6月（昭和44年6月）です。展示品の SENAC (Vol.1, No.1 1968-4) は、センター発足一年前に準備室委員会により発行されました。掲載されている内容は、利用に関すること、設置準備に関することなどです。開設に向けての準備の期間であり No.1~No.3 には設置準備の各種委員会、設備の進捗の経過が詳しく書かれています。発行は現在も続いており、本号で Vol.46, No.1 となりました。「SENAC」の名称については展示室便り①で紹介しましたが、東北大学の電気通信研究所で開発された計算機 SENAC (SENdai Automatic Computer) から命名されました。この表紙のデザインはパンチカードに SENAC と穿孔したもので、Vol.29 まで使われました。本号の表紙は三代目です。現在は3ヶ月おきですが、当初は毎月の発刊でした。一方、利用者に対する業務連絡を中心に、速報として「大型計算機センター便り」が1969年から毎週発行されるようになりました。現在は概ね月1回の発行ですが、メールマガジンとして継続しております。No.1 の最初の記事は「昭和44年度計算機利用申請書の受付開始について」でした。

センター発足当時は、計算機メーカーごとにオペレーティングシステムが異なり、利用者

が計算機を利用するために参考となる市販の説明書がほとんどありませんでした。そこで、センタースタッフ、利用者、メーカー担当者が協力してシステムの利用法などの説明書を作成しました。展示品2～4は「計算機の利用法に関する説明書」です。ここでは、3つのカテゴリに分けてタイトルを列挙しておきます（これまでの[展示室便り]中で、紹介したものもいくつか含まれています）。

①システムの利用法に関する説明書（展示品2）

利用の手引き、利用者のためのパンチ(穿孔)の手引き、ジョブの構成法、ファイルの利用法、TSS入門、TSSの使い方、TSSライブラリの利用法、ACOS-6 FORTRAN 構造型エディタ FEDIT、スーパーコンピュータ SX-3の使い方、高速化推進研究活動報告。



展示品 2

②ライブラリ／アプリケーションに関する説明書（展示品3）

数値計算ライブラリ SSL、図形処理ライブラリ説明書 (I) DRFLIB 編、図形処理ライブラリ説明書 (II) GKS 編、会話型データベース管理システム COOD 説明書、UNIQ-1の使い方、X線/中性子粉末解析パターン Rietveld 解析システム RIETAN、結晶構造解析プログラムシステム UNICS。



展示品 3

③メインシステムとは別に導入された小規模システムのための説明書（展示品4）

DTシステムの利用法、手書きOCRの利用法、図形入力装置の利用法、画像システムの使い方、東北画像データベース説明書。



展示品 4

展示品5は、[センター概要]です。センターの見学等でセンターを紹介するために作られている冊子で、システム更新時などに改版されてきました。

展示品6は、「十年史、三十年史・軌跡、年報」で、センターの活動をまとめた刊行物です。



展示品 5



展示品 6

読者の中には、若い頃センターを利用されたときに参考にした説明書を上記写真やタイトルから見つけられ思い出された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

紹介したこれらの刊行物はセンター広報活動の一環として発行してきましたが、改めて並べてみると計算機センターの歴史と計算機の進歩を感じます。この展示室便りもこれらの資料を参考にしながら書いています。